

山岸文庫本『本朝麗藻』

横井孝

本学図書館の山岸文庫には二部の『本朝麗藻』を蔵する。うち一本（同文庫分類番号「一四三二」）は、かつて川口久雄氏が『平安朝漢文学史の研究』（明治書院刊、第十八章第一節「本朝麗藻の諸本とその成立」）の中に、

山岸文庫所蔵本 下巻写本一冊

九条家旧蔵。七行書写本。茶色表紙、近世初期写、大型本。建暦三年の奥書のある善本である。（五九六頁）と紹介され、四十六丁オモテが図版として示されたことがあった。その後、『山岸徳平著作集Ⅰ 日本漢文学史研究』（有精堂、一九七二・五刊）に「中古漢文学史」が収められた時に図版として本文冒頭の三丁オモテが掲載されたが、全容は紹介されないまま現在に至っている。いま、該本を川口氏に倣って「九条家旧蔵本」と呼称することとする。

いま一本（分類番号「一四三二」）は、巻末に明和六年（一七六九）の菅原在家による奥書があり、川口氏の紹介にも漏れており、おそらくは従来未発表のものであらう。後述の事情（ボールペンの書込）により、博士には公表の意志がなかったものと忖度されるが、本稿では、しばらくこれを「菅原在家本」（在家本）と仮称することとし、以下該本を中心

に略解題を付して翻刻本文を提示したい。

〔書誌〕

「菅原在家本」は袋綴写本一冊。縦二七・〇糎、横一七・五糎。楮紙渋引表紙、左肩打ち付けに「本朝麗藻下 上巻闕」、右肩に「承／五十二」、さらに右裾に「在家」と大きめに墨書される。かなりの虫損があり、表紙の一部のみに簡易な裏打ち補修が施されている。内題は「本朝麗藻卷下 上巻闕如」。墨付四十三丁、「蘭園堂版」丁子色単辺単界の用紙に半丁九行書。一行に大略二〇字を配する。奥書は四十三丁ウラに、

建暦三年十月廿六日於大聖院御所加校

點了

桑門清寛

明和六年三月六日使他士寫之重以他

本校之可也

式部大輔菅原在家

とある。在家は、唐橋流菅原氏。参議式部権大輔在廉の次男にして、早世した兄在秀（元文五年へ一七四〇）三十一歳にて没）の跡を継いで正二位権大納言に至る。寛政三年（一七九一）九月廿九日に六十三歳で没している（『公卿諸家系図〔諸家知譜拙記〕』続群書類従完成会刊による）。明和六年（一七六九）当時は、まさしく正三位式部大輔前参議（『公卿補任』）在家四十一歳の時にあたる。楷書体の丁寧な筆写態度で、誤記を胡粉で塗布して訂正した部分が全体で一〇箇所を数えることができる（↓の記号は、胡粉によって訂正された前後の表記を示す。カギカッコの空欄は、書きさしを塗布し

たことを表す。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 二丁裏 1 行目 「」↓「程」 | ② 十九丁裏 6 行目 「花」↓「色」 |
| ③ 二十一丁裏 7 行目 「道」↓「遠」 | ④ 二十四丁表 8 行目 「程」↓「帝」 |
| ⑤ 三十三丁表 8 行目 「酒」↓「詩」 | ⑥ 三十八丁裏 3 行目 「雲」↓「風」 |
| ⑦ 三十八丁裏 8 行目 「蓋」↓「蓋」 | ⑧ 三十九丁裏 4 行目 「満」↓「盈」 |
| ⑨ 三十九丁裏 4 行目 「」↓「流」 | ⑩ 四十二丁裏 7 行目 「鬢」↓「己」 |

該本は山岸博士の手沢本であつたとおぼしく、ほぼ全丁に亘つて博士の手による青色の油性ボールペンでの書込（一部鉛筆書あり）があり、表表紙見返し右端には、

以国会図書館鶚軒文庫本校訂、同本重野安繹旧蔵本也（以上、ボールペン書）

應制之詩起 於（マ） 李唐云故事成語考集注卷下二十四ウ （以上、墨書）

と墨書を交えた識語があるように、本文中の書込は国会図書館所蔵の鶚軒文庫本によって校合したものと知れる。いま鶚軒文庫本と比較してみると、校異・注記の採るべきを採り、博士の綿密丹念な仕事ぶりを偲ぶことができる。縦横の書込の様相と印刷上の制約とから、以下の翻刻では博士のボールペン書を活字化することは断念せざるを得なかった。

また、裏表紙の見返し左端にも、

以土肥慶蔵医博旧蔵本

昨冬以降 毎（マ） 得閑校訂 而今日（マ） 遂校了云云

昭和四十五年四月五日 岸迺舍

と墨書の識語が記されている。

なお、「九条家旧蔵本」は袋綴写本一冊。縦二九・〇糎、横二二・〇糎。茶色表紙、左肩打ち付けに「本朝麗藻下」と記す。墨付五十九丁、巻首・巻尾に各一葉の遊紙が付されている。識語は、

建曆三年十月廿六日於大聖院御所加交點了

葉門清寛

と、五十九丁のオモテに本奥書があるのみで、伝流の手がかりとなるものはない。該本についても、近い将来に紹介する機会が与えられるはずである。

〔本文〕

『本朝麗藻』の伝本は、『國書總目録』によれば、国会図書館をはじめ内閣・静嘉堂・京大・東北大・神宮・尊経閣・成實堂・陽明などの各文庫に十八部十八冊が伝存する由であり、川口久雄氏もまた前掲書『平安朝日本漢文学史の研究』において十八種の伝本を紹介しているが、前者には鵜軒文庫本のように重複する記載があり、後者には新校群書類従本などの活字本をも数えているものの、幾らかの欠（当該「菅原在家本」の他、某氏蔵本があると仄聞する）があるとしてもほぼ現在の伝来状況を知るのに不便はないといえようか。

右のごとく伝本もさほど多くない現状ながら、本文はおのずと数種の系統に分類されうようである。川口氏は上の諸本を奥書などの形態によって、

- (a) 称名寺旧蔵・尊経閣蔵本の系統……………上巻残闕
- (b) 尊経閣蔵茶表紙本の系統……………下巻のみ
- (c) 上の両者を総合した類従本の系統

という三種に分類している（前掲書、五九一頁）。今回「菅原在家筆本」を翻刻するにあたって、その位置付けのために数部の本と対校した結果の一部を併載してみたが（翻刻部分下段参照）。まだ精査の機を得ない本を除く不完全なものであるものの、また凡例に示したごとく極めて簡略な対比の方法を採ったにも関わらず、ここには既にいくつかの傾向を看取することができるであろう。

例えば、尊経閣蔵天和三年筆写本（略号Ⅱ尊B）は表紙の松雲公前田綱紀の自記に「以弘文館之藏本摹贍之」とあるように、内閣文庫蔵の弘文館旧蔵本（函架番号二〇四―二八七）（略号Ⅱ内B）の忠実な謄写本であり、『本朝麗藻』の諸本中系譜が明らかな稀な例であると言えよう。左の対校でもうかがえるが、ミセケチ・傍記などもほとんど同一とみてよく、この二本のみが異文を示す箇所が八十余。他本の本文と重なる例はなくはないが、下位分類においてこの二部と同類と看做し得る本は左の対校本の中にはなさそうに見受けられる。

尊経閣蔵のいま一本・茶表紙本（尊A）は、内閣文庫蔵の別の一本（函架番号二〇四―二八五）（内A）とは系統を同じゅうすると思われるが、二本が寄り添うた異文も四〇箇所あまり、うちこの二本のみの異文は十例に充たないありさまで、むしろ同一箇所五〇を越える、山岸文庫の「九条家旧蔵本」（略号Ⅱ山）の方により近い印象を与えている。

山岸博士が在家の本に校合した国会図書館蔵鵜軒文庫本（略号Ⅱ国）は、異文表記などの書き入れが多いことで特徴的な写本だが、「……乎」という傍記をたどればいわゆる「尊経閣蔵茶表紙本の系統」に近接するものの、一方では本行部分が独自異文を示す例が少なくない。ただ、その多くは誤写とおぼしき例であり、同系統の中に位置付けるべきである。書き入れの箇所を中心に取り出して、他本と比較してみれば次表のようになる。

	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
	己看・ (二九ウ3)	硯声興・ (二八オ7)	廃田・租 (二一オ6)	追・嘲・ (一九ウ7)	漁・父・去 (一八オ2)	黒・龍・翻 (一二オ9)	毎見・勝境 (六オ7)	在家本
	≒着看	≒奥興	田村 田乎	上追 朝嘲乎	≒漢漢 文文	累黒 乎	着看 乎	国会本
	看	奥	田村 田乎	上追 朝嘲	漢漢 文文	累	着看	尊経閣A本
	看	興	村田 田乎	上追 朝嘲	漢文	≒累黒	着看 乎	内閣B本
	着(山)	奥(山)			漢文(諸本)	累(山ほか)	看(山ほか)	備考

以上は一部の例に過ぎないが、相互の本文の親近さを物語るものではあろう。在家本が独自の異文を提示していることはしばらく措くとして、国会本の書き入れここでは尊経閣A本や内閣B本と歩調を一にしており、この他の例——例えば「齊院相公亡・日令修諷誦」(在家本三十九丁ウラ7行目)なる詩題では尊経閣A本・内閣B本が「…相公已日…」としており、国会本は一旦「…亡」と記しながら重ね書して「…己」のごとく修正している。また、表中でも⑤は、尊経閣本が本行を「由」と誤ったため「田乎」の傍書が生じたのだが、国会本は「由」を「田」に修正した(あるいは更に誤写を

重ねたのが修正に結果したか)にも関わらず、「田乎」の書き入れを遺しているのである。いずれも国会本が明らかに尊経閣A本・内閣B本のごとき本文を継承した事実を示すものであろう。

さて、当該「菅原在家本」は、右に見たような尊経閣本の系統からはやや距離を持った本と看做すことができよう。翻刻下段の校異をご覧戴ければ、この簡略な表示によっても、尊経閣本等に対立する部分が少なくないことが看取できるはずである。おそらくは川口氏のいわゆる「類従本系」の範囲に属する一本と言うべきであらう(山岸博士がこの本の公表をせず、油性ボールペンなどで書込を施していたのも、このためかと忖度されぬでもない)が、類従本自体が尊経閣本の系統の影響下にあるという状況を考慮するならば、「類従本系」なるものもお精査を要すると言わねばならない。

該本には作者名の下に双行割注の形を以て勘物を付している。他本が朱書などで簡単に実名表記するだけ(あるいはそれすらも記さない)なのに対して特徴的というべきだろう。また、本文中の割注を詩の末尾に一括して掲げる筆写方式もその可否はともかく、該本を特徴づけるもののひとつである。

〔凡例〕

一、以下は山岸文庫蔵『本朝麗藻』の「菅原在家本」の翻刻である。

一、上段に翻刻本文を掲載し、下段には八部の本の簡略な校異を示した。

一、改行・改頁・字体をはじめ、なるべく底本の原態を伝えるべく努めたが、翻刻に際しての手続き上、以下の点に手を加えた。

- 1 詩の本文の頭に連番を付して参考に使ならしめた。詩序のみで詩を欠くものも、準じて番号を与えた。
- 2 丁移りは、「」の記号を以てし、表裏をカタカナで示した。判読されたい。

一、解題にも記したように、底本には、山岸徳平博士の手によって全丁に互って鶚軒文庫本の校異の書込がなされているが、印刷等の都合上これを再現することはできなかった。下段の国会本の校異を以て僣ぶすがとされたい。

一、下段の校異は、あくまでも底本の本文の位置付けを知るための目安に過ぎないものであり、完全な校本を目指したものでないことをご了解願いたい。なお、参看した諸本とその略号は以下の通り。

山……………実践女子大学山岸文庫蔵「九条家旧蔵本」

尊A……………尊経閣文庫蔵茶表紙本（函架番号 一四—二）

尊B……………尊経閣文庫蔵天和三年筆写本（函架番号 一四—四〇八）

京……………京都大学蔵本（函架番号 菊—ホ—二三）

内A……………内閣文庫蔵本（函架番号 二〇四—二八五）

内B……………内閣文庫蔵弘文館旧蔵本（函架番号 二〇四—二八七）

国……………国会図書館鶚軒文庫本（函架番号 奴—一九七九）

なお、これもまた参考のため、群書類従の本文も活字本によって示したところがある（略号Ⅱ群）。以上は繁簡よろしきを得ないが、底本の理解のために参考に供し得るものと信ずる。また、下段の洋数字は、上段本文に対応する行数を示す。各所蔵者には参看の便を与えられた。記して謝意を表したい。

本朝麗藻卷下 上卷闕如

雜題部

山水

佛事
僧侶佛事

神祇

山莊 閑居

帝德

法令 書籍付勤學

賢人

讚德 詩酒

贈答

餞送 懷舊

述懷

「一才」

「一ウ」

本朝麗藻卷之下

○山水部

遙山斂暮雲 以晴為韻

中書王 具平親王也
村上帝子也

(1)

廻望四山向暮程紅煙斂盡遠空晴谿東唯殘陽

照嶺上何妨滿月生紈扇拋來青黛露羅帷卷却翠

屏明穉深眼路無纖霽其奈香爐舊日名

同前

江以言 從五位下仲宣子嘉言兄
弟欽一云大隅守仲宗子 「二才」

(2)

渺渺遙山幾許程暮煙斂盡望中晴遠松正色鳥歸

見新月浮陰嵐去明深帳高褰青黛出低巾更整醉

顏驚吾王本自久相樂尼嶺光輝顧盼生

過秋山

「一才」

1 上卷闕如—ナン諸本

4 山莊—山莊諸本 5 勤學—勤學山

6 詩酒—詩 酒尊 A

目錄—ナン群

「一ウ」

「二才」

1 本朝麗藻卷之下—ナン群ヲ除ク諸本・本朝麗藻卷下群

3 雲—煙群

4 割注—ナン諸本

5 程—裡尊 A

7 穉—秋諸本

8 割注—ナン諸本

「二ウ」

1 渺渺—渺々諸本

2 帳—帷群

3 案—乘内 A

中書王

(3)

清晨連轡伴樵歌漸上青山逸興多松嶠煙深迷晚
暮石梁霜滑倦嵯峨林間尋路踏紅葉巖畔側身攀
綠蘿三峽寒猿傾耳聽一行斜雁拂頭過長安日近
望難辨碧落雲晴仰可摩莫道登臨疲跋涉人間峻
岨甚山河

「二才」

海不辭水以深為韻

江以言

(4)

巨海儀形聞古今不辭積水遂成深謂多夏后奔流
漸淪細穉玉滴露侵吞閱渭波涇浪色納傳一日再
潮音朝宗有信未知飽涯岸無厭何處尋坎位當仁
宜自得坤靈與化好相歆三廻九折東西路江月漠
雲晚夕心萬國應歸南面德衆星猶拱北辰陰拙詩
迷叙滄遯趣更執玄虛舊賦吟

「三才」

晴後山川清探得遊字

左金吾藤原公任

(5)

山霽川清景趣幽近望西脚對東流嶺(A)毛女唯青
黛浪伴漁翁自由頭雲霧靄收松月曙孤蒲烟卷水
風穉云仁云智足相樂宜矣登臨促勝遊

同前探得添字

善爲政作者部類云保
章子也善滋氏

(6)

晴後遠尋勝地占山清川潔色新添潭心月映金波
漲嶺面雲開翠黛纖松鶴翫翎高歌舞藻魚掉尾入
難潛君多智仁長相樂此處誰嫌久滯淹

「三才」

7 三峽—三叫山尊B京内A内B国群

「三才」

5 穗—秋山尊B京内A内B国群

玉—王山尊A尊B京国群

6 潮—湖尊A内A国群

7 南面—南西山尊A内A・南西(傍書「南面歟」)京

8 拱—拱尊A内A内B国群

「三才」

2 藤原公任—公任尊B・藤公任京

3 山霽川清—近卜山川(傍書「山霽川清」)山京内A
嶺—嶺模群ヲ除ク諸本

4 烟—煙諸本

5 穗—秋諸本

7 割注—ナシ諸本

9 歌舞—欲舞山尊A尊B京内A国

「四才」

與諸文友泛舟於宇治川聊以追遙

儀同三司 藤原伊周

(7)

篋筌籛盧宇治川泛然相憶古神仙清談緩發盃初
匪歎騎遲來棹未前橫嶺晚雲紅慘愴落灣秋水白
潺湲村南柳樹將軍宅橋北稻花帝王田波勢湯湯
巴峽路風聲嫋嫋洞庭山河奇絕詩人記土地苞
第里老傳朝位共趨鸞鳳闕野遊同宿釣魚船壽夭
否泰非吾意唯誦莊周第一篇

「四才」

深草西岸有一舊墟臨河有楊柳兩三株人傳天
慶征東使終焉之地也江相公詩云只看小暗宅
前柳謂此乎 宇治院臺榭已毀只有點田

夏日部於員外^(一)端尹^(二)文亭同賦泉傳萬歲聲詩一首

^(一)藤原賴家
^(二)春宮大夫

江以言

夫楚金風胡之利豈非資砥礪之功吳桐煙越之材
且猶待彫刻之力人之好學其義在斯是以貢外端
尹以左丞相之家督定居東閣引梓材於群英之中
學步北闕期槐路於累葉之下於戲魯公者周公之
嫡嗣也霍禹者霍光之長男也漢家襲封之後慙蒼
頭於黃山之雲齊國執政之中責北面於東海之月
積善餘慶猶獨冠古今者也今屬泉聲之傳萬歲始
動風情之備六義云爾

山呼萬歲空無識水號千秋未足要唯有泉聲新引
得相傳萬歲一家還

同前

「四ウ」

1 智仁—仁智山尊A尊B京国 3 儀—義山尊A内A 藤原

伊周—伊周尊B内B・ナシ山尊A内A国群 4 籛—蘆諸

本 5 歎—緩諸本 横—模群

6 潺湲—潺湲山 村 林尊A尊B 將軍宅—コノ下「深草

：此乎」ノ割注諸本

帝王田—コノ下「宇治：點田」ノ割注諸本

8 魚船—漁船山尊A尊B京内B国 天—天山

「四ウ」

1 楊柳—柳山 征東—位東内A 2 前—邊(傍書「前」)

尊A・前(傍書「邊」) 国・前邊尊B内B 點田—點田

山尊B京国・醫尊A 3 夏日—寬弘四年夏日内B京 部

於—陪於山群・於(傍書「陪」) 尊A国・陪京 藤道綱

歎—ナシ諸本 春宮大夫—東宮大夫頼通尊B京内B・頼

通群・ナシ山尊A京内A 萬歲聲—萬歲聲内B 一首

ノ下—以送為韻并序尊B内B国群 6 刻—斷山・斷内B

・斷尊A国 7 居—「君」ミセケチ「居」内B 8 期—

相期群 累葉—黒(ミセケチ「累」) 葉尊B内B・黒禁

(禁ミセケチ「葉」) 尊A 9 霍禹—禹霍群

「五才」

1 於—「村」ミセケチ「於」尊B内B国 執政—報政山尊

A尊B京内B国・政群 北面—比面尊A

4 秋—秋山 未—末山

5 遥—送諸本

(9)

人年萬歲傳何處一道飛泉遶石橋
漢主若知家主意山聲定愧水聲遙

○佛事部

見大宋國錢塘湖水心寺詩有感繼之

源爲憲良門玄孫也
順光孝帝子見江談

(10)

錢塘尋寺幾回頭見說煙波四望幽
精舍新詩應目想白家舊句欲心遊
湖中月落龍宮曙岸上風高雁塔秋
法界道場雖佛說恨於勝境自難求

同諸知己錢塘水心寺之作本韻

左金吾

(11)

錢塘湖上白沙頭四面茫茫樓殿幽
魚聽法音應踊躍鳥知僧意幾交遊
春風岸暖苔苗舊暑月波寒水檻穉
已對詩章諳勝趣何勞海外往相求

酬和前遠州繼大宋國錢塘西湖水心寺詩之什

源孝道清和曾孫元亮子
也滿仲養之

(12)

聞說錢塘對嶺頭中古地勢寺亭幽
樓臺淨土新形趣風月樂天昔宴遊
白浪傳湖声面舊紅林倒影水心秋
每見勝境在詩句恨隔雲濤不得求

晚穉遊清水寺上方

左相府

(13)

清水寺深東嶺頭暫辭塵境草堂幽
雲端鐘嚮逐風去澗口泉聲穿石流
禮佛獨憐霜葉老伴僧同入暮山秋
輪廻世々纏煩惱今仰大悲豈有愁

「五才」

「五ウ」

「六才」

7 割注一ナシ諸本

8 漢一「漢」ミセケチ「漢」国

「五ウ」

2 大宋一太宋尊A尊B内B国

3 割注一ナシ諸本

4 回頭一廻頭諸本 目想一日想群

7 錢塘一餞錢塘尊A・餞(補入)錢塘尊B内B・餞塘京

9 魚一莫山

「六才」

2 穉一秋諸本 諳一詩(傍書「諳」) 尊B・「詩」ミセケチ

「諳」内B

3 之什(行末ニ)一本韻尊A尊B京内B国群

4 割注一ナシ諸本 5 中古一中占山尊A尊B京内B群

6 湖声一声湖山内A 見一看山京内A・着(傍書「看」)

尊A・着(傍書「看乎」) 尊B内B国

8 穉一秋諸本

9 左相府ノ下ニ道長(朱書) 尊B京内B

「六ウ」

1 鐘嚮一鐘響群ヲ除ク諸本・鐘韻群

同前

勘解相公藤有國

(14)

秋遊多被上方牽清水寺中古洞前路僻遥登巖柱
月梯危斜度澗松烟真心偏得逢千佛俗骨還如到
半天從此塵機長斷盡生生世世結來緣

冬夜宿法音寺各言志

〔六ウ〕

江以言

(15)

近日相期此寺中此霄相宿思方空先言不信夏侯
芥雙鬟漸梳商老蓬抱節還傷松竹雪繫緣遥結悉
檀風有時俟得好文日始識是吾運未通

烱日遊東光寺各成四韻

善爲政

(16)

樓臺竹樹自高卑此寺由來地勢奇籬下寒花紅錦
綉池中烱水碧瑠璃茶煙繞出山厨寂松月遲昇岫
幌垂今日相尋偷顧望雲泉無厭我初知

〔七オ〕

晚鴉遊弥勒寺上方

源孝道

(17)

秋尋蕭寺陟高岡攀樹踞巖只眺望塵境心悲虛澗
水禪門徑踏半天霜巫陽有月猿三叫商嶺無雲雁
一行日暮入堂偏念佛生涯毀譽任家鄉

禪林寺眺望

源道濟 光孝帝末孫也
以言弟子

(18)

一尋古寺到城東靜立上方四望通紅樹重重寒雨
後煙村處處夕陽中塵勞欲洗胸波水毀譽不來耳

〔七ウ〕

5 藤有國—有國尊B内B群・ナシ山尊A内A国

7 松烟—松煙諸本

9 冬夜—冬日群

〔七オ〕

2 候—候山・俛内A国

4 始—姑群 未通—末通国

7 自—目諸本 高卑—高早内A

8 錦綉—錦繡諸本 寂—家(ミセケチ「遠」)内B

遅—遥群 烱—秋山

〔七ウ〕

3 高岡—高岡諸本

4 霜—表山尊A尊B内B国群・表(左脇ニ「ソノマ、」)

京内A

7 割注—ナシ諸本

界風自是宜水無^(一) 結永拋俗累出樊籠

石山寺小池蓮

源為憲

(19)

寺鑿小池蓮正繁與人間艸不須論經為題目佛為
眼知汝花中植善根

歲暮遊圓城寺上方

江以言

(20)

歲暮偶尋山寺登蕭蕭四望感相仍鄉園迢滯令雲
隔林草彫殘被雪凌風澗寒時斟綠桂石橋滑處杖
紅藤松門親友昏看鶴花路遠鷄曉聽蠅共引霜臺
歡會客初逢雲洞薛蘿僧風情忽發吟猶苦日脚漸
斜去未能憊來累業眼前結除却塵勞言裏凝學路
虛名暫夜月官途寸步踏春冰欲歸延佇及昏黑遙
指河西一點燈

七言冬日於雲林院西洞同賦境靜少人事詩一

首以除為韻
并序

源道濟

雲林院西洞天下奇地也本雖孕地之異勢猶未加
人之潤色往來定闌梨初來為主矣彫雲以架經藏
簾月以裁佛座疏方流而貯泉脉江鳬海鷗萃止其
間環小山而籠烟嵐奇卉靈木輔藻其下內以備高
潔之事外以極廣望之趣春風秋月好事之者無不
遺賞焉筭室煙絕金河波枯以來鳥雀皆含愁雲之
影草樹盡帶悲風之声戀慕之至也況復歲暮而多

「八才」

「八才」

1 隨—ナシ尊A内A 水—ナシ山尊A尊B京内B国群

結—洪結山内A・涙結尊A尊B群・涙(傍書「洪カ」)

結京・涙(傍書「漏」) 結国

4 繁—进山尊A尊B京内B国群・洋内A 題—顯尊A

5 植—殖山尊A尊B京内A内B国群

6 圓城寺—園城寺尊A尊B内B国群 上方ノ下—勒諸本

8 滯—遞群

「八ウ」

1 鶴—鷄尊A・鷄(傍書「鶴」) 尊B・鷄(ミセケチ「鷄」)

内B 蠅—蠅諸本 2 苦—若尊A尊B

3 未—来(傍書「未乎」) 尊B内B国 能ノ下—泉戸草殘

寒雪厭山厨茶熟暮煙興諸本 言—意(傍書「言歟」) 尊

A尊B内B

4 暫—愆山尊A尊B京内B 延—近(傍書「延イ」) 尊A

国 5 燈—煙内A 6 同—(補入) 国

「九才」

1 往來—往年諸本

2 海—ナシ(「烟」ノ下ニ転倒) 尊B内B

3 烟—煙国ヲ除ク諸本 4 高潔—高深諸本

5 枯—拈山尊A尊B内B

6 慕—暮(傍書「慕乎」) 尊A尊B内B国

(21)

情感境靜而少人事寂寂紙窓之中禪侶誦兮只微音漠漠沙堤之上仙禽眠兮不鼓翅至於松軒幽而塵客稀來蘿洞深而香火纔點烟霞其興則身遊無何有之鄉水月其觀只心入空假中之道者也于耽我黨之英都盧四人雖偷出洛城遠尋風流之幽趣而一入古寺共動舊故之悲端于嗟往其所思其人不亦宜乎請記今日之大概將為當生之小緣云爾一辭塵巷入煙霞乘興不知往反賒境靜人稀無俗事松風颯颯日方斜

七言暮禮勸學會於法興院聽講法華經同賦世尊大恩詩一首以深為韻并序

高積善茂範玄孫也

暮春暮秋十五日緇衣白衣四十人講法華呀文藻名曰勸學會矣近世以降會衆之鐘不聞趣期之客無音月輪像前講筵空倚曝露之冷壁天台山下詩境還為望雲之故鄉廢絕之趣自然而然方今位祖講者不幾僧俗纔五六人適遇洛陽中議以復舊之計(つゝ)愈本堂破以不繕無處相期行路遠而有煩誰人必到況乎九州之地遞有盛衰當其衰也其事不建安知此會之所廢不須復其去之令然沈吟而日月漸久終入左相府之聽相府觸事重舊風之欲墜每道戒先祖之可傳(つゝ)許此院以繼我會依鴻恩以事雁王而已遂使世尊之有大恩我等之無一報街珠以有何由已繫內衣之閑粉身以可不足忽得中

「九オ」

「九ウ」

「一〇オ」

7 窓—客内 A 兮—号山

9 來—米内 A 烟霞—煙霞山尊 A 尊 B 京内 B 国

「九ウ」

1 空—室 (ミセケチ「空」) 内 A 群

4 不亦—不出内 B・又 (ミセケチ「不」) 出尊 A

7 種—秋諸本 法華經—諸本 (法—法傍書「法」) 国
9 茂範玄孫也—ナシ諸本

「一〇オ」

1 法—法 (傍書「法敷」) 尊 A 国 法華—法花山京

2 日—(補入) 内 A 趣—赴諸本

4 而然—(補入) 内 A

5 講—携群

6 僉—僉曰諸本

「一〇ウ」

3 閑—間山尊 A 尊 B 京内 B 国群

道之理頂戴之志不可測量者也既而清景難遇佳
期可知汝南備鷄之家范張唯二友城東讚佛之席
風月是幾聲積善競宿露以誦一乘之文屬落日以
繫九品之望歷閑官而多暇朝暮之薰修漸積顧殘
涯而少歡山林之素意屢驚云爾

(22)

同前

勘解相公

勸學會中聽法音世尊未報大恩心以處空較空猶
狹勘巨海論海豈深圓頂戴來難思議兩肩荷負不
堪任春秋十有九年後此會中興契古今

(23)

探得富樓那

源納言

出從釋氏富樓那字是滿江意幾多知惠風高詞卷
霧辨才浪涌口懸河慈悲內契應由我利益外情似
忌他第一名聞三世久生生展轉在娑婆

(24)

秋夜對月憶入道尚書禪公

源為憲

去年尋君談話夜飛香樹東秋月明今夜憶君端居
夜教業坊中秋月清一虧一盈月相似時去時來人
不同當我衰鬚難辨白入君觀念應覺空何事閑對
得相憶員外官冷無所勞定知山月咲遲未行年比
君二年兄

(25)

「一〇ウ」

「一一オ」

「一一ウ」

6 幾聲—幾々聲尊A尊B内B国 落日—(傍書) 此間有落

字乎尊A尊B内B国

7 閑官—閑官尊A・閑宦尊B

「一一オ」

4 處空—虛空諸本 較—授(傍書「較乎」) 尊A尊B内B

国

5 勘—勘諸本

8 源納言ノ下ニ—俊賢尊A尊B京国群

9 氏—民山尊A 知惠—智惠尊A京国

「一一ウ」

1 霧—露山 2 忌—忘国

6 去—公(ミセケチ「去」) 内B

7 鬚—鬚尊A尊B内B国群

8 未—來諸本 比—北内A

贈心公古調詩

中書王

(26)

少中受君業長年識君恩不嫌我才拙頻垂師訓惇
交情深淡水操行染蘭蓀秋同開月戶春共入花園
看雪松下閣避暑竹陰軒結契年幾改十五變寒溫
逐年心弥固金石何足言相見期終世何似水上鷺
一面歡忘憂不用堂北宣君已為儒士對冊上龍門
丹穴招鳴鳳滄溟驚臥鯢風煙賞翫處沉思琢瓊瑤
吟聲寒王振筆跡黑龍釀公為內史氣擬相如賦理
過植子論韻古潘與謝調新白將元博達貴今古識
覽洞乾坤終觀身幻化長避貴囂喧禪坐一巖戶山
深僻民村君我相別後漸以累晨昏形貌猶在目戀
慕幾動魂林中拋風景快上點淚痕收淚倩思量遠
哉君心源人皆營營利擾擾復惛惛上求三公位下
欲五馬轅夜使筭財產明也東西奔入家憐妻妾奉
公為子孫晚歲方富貴食飽而衣溫貪欲所積集錢
帛似雲屯奴婢曳羅綺歡宴列疊躋庭院山水遶林
叢錦窠繁秋露一朝殞長入那落燔簾中有飽雉象
中有肥豚少分生前樂萬劫後世煩莫着夢花色可
畏邪棘蕃雖道諸佛力不結斷惡根譬猶日月光不
能穿覆盆君已割恩愛解纓入丘樊慈悲覆法界戒
行為化勤我幸出皇胤縈綵列于藩衣食涯分足虛
閑方寸存生持妙法菩提欲攀緣余有生誦持
法華經教化衆
生之常隨君前後宛如弟與昆願共生極樂之日常

「一二ウ」

「一二オ」

「一二オ」

1 心公—(傍書)慶保胤尊B内B群

3 少中—少日諸本

6 逐—遂尊A 7 忘—忌尊A 8 風—鳳諸本 思—恩群

9 王—玉諸本 黒—累山尊A尊B内A・累(ミセケチ)黒(

内B・累(傍書「黒乎」) 国 内史—内書山尊A尊B内

B 国群・内尺内A・ナシ京 日—ナシ山尊A尊B京内B

国群

「一二ウ」

1 植子—桓子諸本

2 覽—鑒山尊A尊B京内B 国群 貫—世諸本

4 淚—渡山

5 營利—榮利諸本 憎憎—(傍書)不明良也尊A 国

6 使—便山尊A尊B京内A内B 国

8 疊躋—疊躋(傍書「疊躋乎」) 国 遼—遥尊B内B群・

遼(傍書「遼歟」) 尊A 国

「一二オ」

4 勤—勒山内A 国 縈綵—(傍書)縈綵尊B内B

于—千山

5 欲—願(補入) 内B・ナシ尊B 攀—鑒(傍書「攀乎」)

尊A内B 国・鑒(傍書「願攀イ」) 尊B 法華經—法花

經尊A京内A 6 弟—第尊A 国 与—子(ミセケチ)与

念佛言談之源合眼唱願共謁慈尊公与天台源公佛号余同有往生之願云修位過慈尊之
預之適相次入地獄罪人盡平反公身隨鬼畜忽解
楚痛寃世世為師弟遊化生死原處處蒙教救施与
法喜食縱盡未來際此語誓不謬

憐戸部出家應和右丞相之侍婢

儀同三司

(27) 無簪昔戲紅樓上對鏡今愁白屋中盛者必衰新見
取剝除霜鬢出塵蒙

近來播州書寫山中有性空上人者誦法華經為
事寤寐不休天台源公聞其高行遠尋相見緇素
結緣者寔繁而有徒予傳見諸讀聖德詩顧身甚
恨障礙多緣未遂頂禮令綴拙什聊結後緣

中書王

(28)

寂寥山中坐禪師一乘蓮華能憶持掌底鐵鍼出胎
日經中白米絕糧時妙文暗記眠猶誦法力冥童貌
未衰虱去都應身淨潔禽馴只為意慈悲雖飲同代
開來久更恨終年面拜遲假使眼前無見我猶勝耳
外不知誰豈非今世述君美便是當來讀佛詞再拜
西方遙奇語慧光早照我愚痴

上人出胎手拳久母在開之一針針云云
事見本詩序上人春秋六十九而猶有光澤云

○神祇部

竹生嶋詩

「一三才」

「一三ウ」

「一四才」

歟「尊A内B・子(傍書「与也」)国

7 源一陳山群 願(割注)一願云諸本 位一僊内A・ナシ国
過一遇内B 国群 8 反一友尊A 国・友(ミセケチ「反」)
尊A内B 公一反山尊A 尊B 京内B 群 弟一弟尊A

「一三ウ」

1 食一漬諸本 2 侍婢一侍婢也諸本
4 無一撫諸本
6 法華經一法花經山京内A
9 遂一遯尊A

「一四才」

2 鐵一鐵山・鐵(ミセケチ「鐵」) 尊B内B 鍼一針諸本
3 出胎日一コノ下「上人」鐵針云々ノ割注入ル諸本 白
米一白未内A 時一拙(傍書「時歟」) 尊A内B 時一
コノ下「事見本詩序」ノ割注入ル諸本 童一童諸本
4 未衰一コノ下「上人」光沢云々ノ割注入ル諸本
5 假一縱群・儼尊B
7 奇語一寄語諸本 愚痴一愚癡諸本
8 針一鐵針諸本

「一四ウ」

(29)

高積善

靈島聞名遥寄懷秋風尋到立徘徊老松古栢相重
挿恠石奇巖似欲頽行雨終朝連水見低雲薄暮抱
山廻有神此上歲年久天下翹誠徑浪來

三月盡日陪吉祥院聖廟同賦古廟春方暮各分

一字詩一首 并揀得分字

江以言

廟基拓兆欲百年之間家業繼塵及七代之後吏部
大卿相公當三月之閏餘乘五日之休暇懷故事於
廊下惜春輝於廟前於是貫首弟子大長秋納言其
餘受賚銜業之者左圓右方之倫瀝中露徒下風濟
濟焉煌煌焉以助聖廟之威儀以賁聖廟之風月盖
有以矣相公榮昇甲第高步十六行之中材却辛君
永加三千徒之首即以槐市之棟梁遂為棘路之翹
楚豈非先廟之餘慶延及一家之後胤哉方今芳年
(一五ウ) 己盡花月將窮百花乱落叢祠之雪難留一日己斜
(一五ウ) 栢城之雲漸暗彼伍子江之浪徒揚五葉之聲仙母
山之花空開九株之色未如吾靈廟金策頻加極人
位於夜臺之後素功遂立恣靈望於日域之中方配
太祖之食永傳貽孫之慶焉既而春夜欲明望牛渚
之西轉夏日告朔指象魏而北轅以言性是愚魯雖
暫烏雲之嘲志猶思齊未拋螢雪之業一生只樂道
映萬事自任廟意于眇長保元年閏三月廿九日聊
記大概繫廟籍之卷末云爾

「一四ウ」

4 島——嶋諸本 徘徊——徘徊尊A尊B内B国

6 徑——任山尊A尊B京内B国群

7 賦——賦古廟諸本 分——分 (ミセケチ「分」) 国

8 揀——探山尊B内B

「一五オ」

1 吏——吏 (ミセケチ「吏」) 内B

6 榮——菜山尊A尊B内B群・菜 (傍書「榮」) 国

甲——伊尊A尊B内B群

7 三千——三十群

「一五ウ」

1 揚——揭群 2 極——樹群

3 望於——於望 (転倒ノ記号アリ) 国 日域——日城尊A

5 指——抬尊A・招尊B内B群

6 暫——慙諸本 烏——雁群・為山 7 映——腴諸本

8 末——(補入) 尊B内B

9 緯——緯諸本 鳳——風尊A 宴——ナシ (「雲」ノ下ニ転倒) 内B

時置儀罇召鳳文送春今宴廟門雲一門自有千年
會遮莫花飛後鳥分

七言九月盡日侍北野廟各分一字詩 井探得
并序

高積善

夫形者百年之旅館也名者萬代之嘉賓也西狩以後
奕世聲塵猶揚魯門之風東征已來幾季德輝高
懸漢家之日如我聖廟不其然乎一本無聖廟舊花
可知兼佩將相之印末葉佐鑒顯詩書之功況乎
文字爭鋒之初一家方享邦國之大名雲兩裝駕之
後餘裔猶為風月之著姓今之吏部相公是其四葉
孫也相公久樂祖宗之道槐棘踏陰多仕文武之朝
星霜在首昔受任於海西之府誠求拜其先靈之神
今設宴於城北之祠豈非講其先靈之德當其觴爵
行而座方酣絃歌進而曲將罷相公顧云景物之感
究於秋古人以為一歲終愛賞之思迫此日風俗以
各九月盡前輩之深於詩者觴其萬緒之時也禮云
志之所至詩且至焉詩之所至禮且至焉今日賽於
廟庭宿昔之志而已於戲黃公神之受筆硯文章落
自前軒之雲鄧君仙之掃煙霄青松老於故谿之月
情感之源古今通浪者也積善出懷宗以慕義顧殘
涯以祈恩榮路遙而雖期青陽薄寒木之頂筆耕疲
而未獲秋風暮虛苗之畦云爾

同前

藤為時

「一五ウ」

「一六オ」

「一六ウ」

「一六オ」

1 飛後—飛復山尊A京国群

2 北野—小野山尊A内A 詩—詩一首諸本 探得—探得
字群

6 如我聖廟不其然乎へ(割注) 一字無此八字—ナシ(補
入)「本無此八字／如我聖廟不其然乎」尊A京内A国
聖廟舊—ナシ(補入) 尊B内B

7 印—卯尊A尊B内B 佐—作諸本 書之功況—ナシ(補
入) 尊B内B 8 文字—文学諸本 鋒—錚(傍書「鋒
乎」) 内B国 9 裔—商尊A京内A・南尊B・南(ミセ
ケチ「裔」) 国 著—者内A 吏部相公—(傍書) 輔正
群

「一六ウ」

「一六ウ」

2 首—ナシ(補入) 内A 西—四(傍書「西乎」) 尊A国
4 云—曰尊B内B群 感—咸山尊A京内A 5 究—窮山尊
A尊B京内B国群 6 各—名山尊A尊B京内B群

7 至—(補入) 国 8 鄧—劉尊A尊B国・劉(ミセケチ
「劉」) 内B・劉群 9 谿—溪山尊A尊B内A国群・漢
京—ナシ(補入) 尊B内B

京—ナシ(補入) 尊B内B

「一七オ」

2 頂—項山・順内B

3 獲—獲(傍書「猴」) 尊B内B 畦—畦(ミセケチ「畦」)
尊B内B 4 同前—同前寒字諸本

尊B内B 4 同前—同前寒字諸本

(32) 時隨冠蓋認祠看新樂鋒鏑古(A) 寒非甌玄孫咸盛

集九重天子促金鸞
同前通字

(33) 管絃商曲將秋暮詩酒新声與古通靈廟本爲風月

主宜哉明德滿蒼穹
海濱神祠住吉社

源孝道

「一七オ

(34) 晴沙岸上暮江干鬱鬱林蘿蔭社檀應是神心嫌苦

熱浪聲松響夏中寒
○山莊部

藤為時

暮殊於左相府宇治別業即事一首

左相府 藤原道長

「一七ウ

(35) 別業號傳宇治名暮雲路僻隔花京柴門月靜眠霜
色旅店風寒宿浪声排戶遙看漁父去卷簾斜望雁
橋橫勝遊此地猶雖盡秋興移將潘令情

同前

拾遺納言

(36) 一尋別業許相從賞翫風流到下春交淡偏宜廻砌
水契堅最好拂軒松門前穗導三巴峽窓裡暮迎五
老峯此地勝形聞相者濟川舟楫繼先蹤

同前

源孝道

「一八オ

(37) 河水横西山峙東王程頗僻洛陽宮煙霞奴僕尋常
物泉石資儲造化功庾信園非山境月陶潛家隔相

5 古—口尊B内B 咸—成諸本

「一七ウ」

1 古—昔京・苦尊A国 本—木尊B内B京

3 住吉社—住吉祠群

5 蔭—陰諸本(草冠ヲ朱デ付ス国)

7 山莊—山庄諸本

8 暮殊(秋)—(傍書)長保元年尊B内B

9 藤原道長—藤道長京・ナシ京ヲ除ク諸本

「一八オ」

1 花—華群・(傍書)華尊B内B 2 漁父—漢文山尊B京
内A内B群・漠(傍書「漢歟」)文尊A・漠(ミセケチ

「漢」)文国 3 雖—雌(ミセケチ「難」)内B群

移將—(傍書)將移尊B・(ミセケチ「將移」)内B

5 拾遺納言—(下ニ)行成尊B内B・(傍書)藤隆家京

6 春—春山 7 穗—秋諸本 裡—裏諸本

8 聞—(ミセケチ「関」)内B 川—濟川諸本 楫—櫂尊

A国群・楫(ミセケチ「楫」)尊B内B

「一八ウ」

1 横—模(ミセケチ「横」)尊B内B

門風如何別業幽奇地主客公卿會此中

偷見左相府宇治作有感

中書王

(38) 聞說山家素得名風流較過漢西京樵夫路近談王
亥漁父歌閑慣雅声白浪頻翻秋雪乱紅林半透暮
雲橫一吟佳句讀遊樂初慰紅年寂寞情

白河山家眺望詩

左金吾

(39) 郊外卜居塵事稀迢迢春望思依依荒村日落煙猶
細遠岫雲幽鳥獨歸來去旅人行眼路淺深花錦織
心機蓬居雖耻仙即到愁命詩篇惜晚輝

題玉井山庄在和泉国云云

藤為時

(40) 玉井佳名被世稱松楸半接碧巖稜山雲繞舍應褰
幔澗月臨窓欲代燈梅發寒花朝見雪水収幽響夜
知冰池邊何物相尋到雁作來賓鶴作朋

「一九〇」

○閑居部

閑居無外事

源道濟

(41) 閑居謝遣繫簪纓況亦更無外事營得意詩明懸榻
待移榼軒蓋過門行惟慵唯見籬花色官冷不驚街
鼓声身適自由依卜靜追嘲奔走置虛名

門閑無謁客

2 山—仙山尊A京内A国

4 作—(補入) 国

6 較—授尊A・授(ミセケチ「超」) 尊B内B・授(傍書

「較乎」) 国・超群

7 半—ナシ(「横」ノ下ニ有リ転倒記号付ス) 国

8 讀—諳国 紅—終諸本

「一九〇」

2 左金吾—(傍書) 公任京

4 雪—(ミセケチ「雲」) 尊B内B

8 雪—(ミセケチ「雲」) 内A

9 夜—衣草A

「一九ウ」

6 榼—推(ミセケチ「榼」) 内B 惟—性京ヲ除ク諸本・

情京 冷—吟尊A尊B内B 街—衛尊A内A・衛山京群

7 追嘲—上朝(傍書「追嘲」) 尊A・上朝(傍書「追嘲乎」)

国・(傍書) 上朝内B 置—買内Aヲ除ク諸本

9 慶—藤山群・(傍書) 藤乎尊B内B 氏—慶滋諸本

(42) 家舊門閑只長蓬時無謁客事條空翟公去尉廳長
慶為時氏慶滋^{コソシヤ}
 息袁氏安貧雪不通草合園生秋露白苔封扉滯夕
 陽紅久忘倒屣送迎禮別作雒中奏商翁
 閑中日月長
 一八九ウ

(43) 閑中氣味屬禪房唯得自然日月長幽室浮沈無短
マヤ
 陰居隣里有餘光陶門跡絕春朝雨燕寢色衰秋
 夜霜我是柴扉樗散士閑忙苦榮兩相忘
 〇帝德部
 江以言

瑤琴治世音探得遙字
 御製
 一二〇オ

(44) 初識瑤琴佳趣饒契唯治世思猶遙無爲化出南風
 曲有道心聞子野調撫似養民声更理張如布政操
 相邀從施樂府清絃上至德深仁幾聖朝
 咸減四分之一之詔一首
 源爲憲

(45) 減服御常膳物
 明王濟世幾多功遍代疲民事儉恭御府奇文應減
 製天厨異味不要重堯年水溢多愁沴湯日旱炎自
 弃農聖代難逃天定數何爲責己慕時邑
 一二〇ウ

(46) 減諸國今年調庸及租稅
 王澤旁流及八區曩時擊壤豈相殊紫泥文出仁風
 動黃紙詔傳專露濡宰吏無徵貧戶稅官家不納廢

〔二〇オ〕

2 袁氏—表氏尊B内B・遠氏内A 園—闕山尊B・國內B
 国・国（傍書「闕敷」）尊A

3 奏商—泰適諸本 屣—履山

5 江—紅内A

7 □—畧内A内B・畧山・畧尊A尊B・畧（傍書「寛」）

国 8 土—土尊A内A

〔二〇ウ〕

1 探—深山

2 御製—（下ニ）一條尊B内B・（傍書）一條京

6 威—感諸本

〔二一オ〕

5 專—惠諸本 徵—徵尊A

6 田—村（傍書「田乎」）尊B内B・由（右傍書「村」左
 傍書「田乎」）尊A・田（右傍書「村」左傍書「田乎」

田租九重深處得知否比屋黎元掩泣娛

仲穉釋奠賦萬國咸寧

勘解相公

(47)

明王孝治好君臨天下和平威德音草遍從風南面

「二一才」

化葵遙向日左言心山拋烽燧秋雲暗海龍波濤晚
月深請問來賓殊俗意茫茫天外遠相尋

近日大宋温州洪等人
類以販化故有此興

仲穉釋奠聽講古文孝經同賦天下和平

源為憲

(48)

萬國咸寧仰聖君便知王德及飛沉苞茅頒入朝天

貢葵藿斜抽向日心棧遠都無雲鎖色航忙豈有浪

驚音中華弥遇堂堂化想像邇方各獻琛

○法令部

七言夏日於左監門宗次將文亭聽講令詩一首

并序

江以言

夫法令之與其義遠矣五祇舍而裁成萬靈粟而鎔

範順之者安逆之者危秦皇帝之慘虐繁文酷秋茶

之霜漢高祖之寬仁三章垂春竹之露誠乃政教之

門戶理亂之樞機者也我國家上自推古之聖朝下

迄養老之寶曆上下三四代之間增損屢屢章條數

十篇之裏修撰甫就以安四海之波瀾以定一天之

防禦是以我聖王降敕使披講於宸位之前或賢臣

專精受奧義於南面之下近世以降編竹不開童蒙

「二一ウ」

国

7 仲穉—仲秋諸本 威—成内 A

9 臨—監(傍書「臨」) 尊 B 内 B 威—感諸本

「二一ウ」

3 洪—洪州諸本

4 仲穉—仲秋諸本 釋奠—釋尊尊 B 内 B 和—知(ミセケ
チ「和」) 尊 B 内 B 6 頒—鎮諸本

7 棧—機尊 A 尊 B 内 B・機(傍書「棧」) 国

「二二才」

1 文—父尊 A 尊 B 内 B 国群

4 裁—(補入) 尊 A

5 虐—虎内 A 茶—茶山尊 A 尊 B 内 B 国群

7 上—已諸本

8 間—門山

「二二ウ」

1 聖王—聖主諸本 使—促山尊 A 尊 B 京内 B 国群

(51)

齡傾性懶學荒程偷見天章更微情編次三千憑馬
史宣傳二百屬丘明便知上聖如交語莫道前賢但

中書王

偷見御製有感自以次本韻

閑就典墳送日程其中往事染心情百王勝蹟開篇
見萬代聖賢展卷明學得遠追虞帝化讀來更耻漢
文名多年稽古屬儒墨緣底此時不泰平

(50)

御製

書中有往事以情為韻

虞風猶歡結契弟兄義得便多年深意通
○書籍部付勤學

(49)

披三尺而初學推一寸而愁記云爾
講席偶牽儒學中數篇法令聽于公撫民基趾開東
閣體國權輿出上宮三尺竹疎澄漠露萬方草動有
虞風猶歡結契弟兄義得便多年深意通

「二三ウ

3 暗—ナシ尊B内B 師說—(下ニ)暗尊B内B
4 古—右尊B・右(ミセケチ「古」)内B

7 史—吏(ミセケチ「史」)国

8 刀—力尊B内B 創—劔諸本 劔—銅諸本 開—内Aヲ

除ク諸本

「二三オ」

2 知—ナシ山 令—今山尊A尊B内A内B群

4 初—(補入)尊B内B

6 閣—閣山尊A尊B京内B国群 興—興山 澄—隆諸本

7 便—使尊A尊B内B国群 8 勤—勒山尊A京内B国

9 以情為韻—ナシ尊A尊B内B国

「二三ウ」

1 御製—(傍書)一條帝ナリ京 2 程—裡尊A

3 展卷—卷展(転倒ノ記号アリ)尊B内B

4 墨—黒尊B・黒(ミセケチ「業」)内B

5 以—(補入)国

7 懶—嫩諸本 微—微諸本

8 文華—文花諸本

聞名漢帝文華唐帝筆擬於陛下蟻封平

重有

御製

萬機餘暇閱書程自省還傷治世情鑒古多熙無聖德當時又歎不皇明志深縱樂先賢道性拙年同往哲名神筆雄文何比我被臨學海浪猶平

奉讀重押情字御製不堪扑舞敬押本韻

中書王

天然未必得功程詩帝兼容草聖情直氣充朝星宿聚德輝照世日居明玉燕寒鸞皆依禮蒼鳩新煙不爲名忽戴君恩還自耻風声猶減漠東平

○勤學

冬日陰於飛香舍聽第一皇子始讀御註孝經應教詩一首并序

江以言

易曰君子學以聚之問以辨之蓋乃所以雖有至德要道非學不宜雖有生知幼敏非教不立之故也夫崑陰之竹凌雪待聖造而吹龜背之音繹陽之桐千雲遇良工而張鶴翼之曲者欵是以今皇帝第一皇子初受御註孝經於吏部員外侍郎江大夫矣皇子月中謝智山下擊蒙遂發此五更之間將撫彼千歲之運漢代祖之有昇副慙曩史於千歲之塵唐高宗之得鍾愛傳古文於七年之風在今思古知有以焉既而講誦儀畢觴詠禮成卿士之侍溫顏宜兼堯日

「一二三ウ」

「二四オ」

「二四オ」

2 御製—(傍書)一條京

5 被—彼山尊A尊B京内B国群

6 舞—無内A

8 容—客山

9 聚—聖山 嚮—響諸本

「二四ウ」

1 東—東(ミセケチ「東」)内B

2 勤學—勒學部尊A・勤學部尊B内B国・勒學山・ナシ群

3 陰—(傍書)陪尊B内B・陪群 御註—御注諸本

6 學—與(ミセケチ「學」)尊B内B 蓋—蓋山尊A尊B

内A内B国・蓋群 7 學—與(ミセケチ「學」)尊B内

B 幼—幻尊A京 8 繹陽—澤陽群ヲ除ク諸本・嶧陽群

9 雲—雪(ミセケチ「雲」)尊B内B 帝—(補入)国

第—第(傍書「第欺」)内A

「二五オ」

1 御註—御注諸本

2 問—問諸本 千歲—千載山尊A尊B内A内B国

4 鐘—鐘尊A・鐘(ミセケチ「鐘」)尊B内B 愛—受

(ミセケチ「愛」)尊B内B 5 觴—觸山 卿—郷山

64 之長照絃管之奏妙韻便添舜風之近薰于時寬弘
二年十一月十三日翰林學士以言蒙辟命叙事緒
云爾
人倫高行無先孝皇子執經幼學間從此已知吾道
達 膚出自尼山
「二五オ」

同前

左相府

65 我主今日問微言學得先知敬至尊何忘兔園朝夕

志自蒙君命不殊孫

同前

儀同三司

66 經傳百家多異說微言被世古今聞老臣在座私相

語我后少年學此文

同前

左金吾

67 今日天孫初問道欲廻聰悟就研鑽聖明治跡何相

改貞觀遺風觸眼看

唐太宗使諸王
皆就學故云

同前

源納言俊賢

68 珠待琢磨金待鍊人情從教亦如斯我王道問偏依

禮至孝自然生即知

同前

吏部侍郎輔正

「二六オ」

兼一豕山京

9 幼學—幻學尊A尊B内B

「二五ウ」

3 左相府—(傍書)道長京

4 我主—我王諸本 忘—志京内A

5 孫—(下ニ割注) 有/注山尊A尊B京国

7 儀同三司—(傍書)伊周京

「二六オ」

2 左金吾—(傍書)公任京 3 問道—(下ニ)鑽内A 鑽

—ナシ(補入記号トトモニ傍書「鑽字コ、ニ入」)内A

4 觸—ナシ(眼看ノ下ニ転倒) 国 看—者尊A・着(ミセ

ケチ「看」) 国

5 太宗—太宗山尊B京内A内B 国群 学—與尊B内B

7 俊賢—ナシ群

8 珠待—珠得諸本 待—得(ミセケチ「待」)内A 鍊—練

山尊A京内A 国 道問—問道群ヲ除ク諸本

59

頽齡八十有餘霜未見神聰似我王遺老愚言君記
取一經造次不應忘

同前

江匡衡匡衡字周成衡匡房匡房者正二位權中納言大江氏

60

呂望授來文武學桓榮獨遇漢明時幸傳延喜祖風

跡天子儲皇皇子師

延喜聖代祖父為大師為東學士兼復授第十一皇子皇子即天曆聖主也訪之漢日本朝未有此此今日有情感故獻此句

同前

菅宣義

61

天孫初折天經義孔父舊章唐帝心忽感神聰多孝
行定知四海盡曾參

○賢人部

七言早夏陪宴同賦所貴是賢才各分一字應製

詩一首探得藤字并序

江以言

「二七ウ」

臣謹按月令曰是月也天子帥三公九卿大夫以迎
夏還反行賞封諸侯無不傾說又曰乃命樂師習合
禮樂贊傑俊進賢良夫然天子之馭民順四時而宣
布月令之垂也分百行而旁羅（イ）我后張此一日之
樂懸協彼四月之禮法蘭陵竹園之驚軀命嘲齊雲
於二十餘之閑居露槐風棘之備威儀福堯日於十
六族之未仕干時所貴賢才所待登用散卒降虜之
士紹蟬傳七葉之風芻牧賈估之家出入步五華之

「二六ウ」

4 經一經尊 A

6 割注一ナシ諸本

7 延喜一延壽尊 A 國

9 延喜一正喜尊 A 東一東宮諸本 本一千尊 B 内 B・于尊

A・于（傍書「本乎」）國

「二七オ」

1 此一比諸本 有（補入）國

4 章一文（傍書「章」）山 心一口山

「二七ウ」

1 按一案山尊 A 尊 B 京内 B 國・宴内 A 曰一日（ミセケチ

「曰」）尊 B 内 B 帥一師山尊 A 内 A

2 諸一詩尊 B 侯一候尊 A 内 A・候（ミセケチ「侯」）尊

B 内 B 傾一欣内 A ラ除ク諸本 說一悅山

3 進一（ミセケチ「遂」）尊 B 内 B 4 也一世諸本

5 四一曰尊 A 軀一軀山尊 A 京内 A 國・軀（ミセケチ「貴」）

尊 B 内 B・貴群

6 福一編諸本 日一日尊 A・日（ミセケチ「日」）尊 B 内 B

7 才一戈（ミセケチ「才」）尊 B 内 B

8 牧一枚山 估一古山尊 A 京内 A 國・胡尊 B 内 B 群

月至如夫衣服之須領袖門戸之資樞鍵齊桓公之

得道左矣便是商頭牛口之匹夫周文王之載車石

焉亦猶渭陽鶴髮之賤老者也既而絃管曲罷詩酒

與酣唐太宗之思鸞語金殿之月眉傾顏深疹之應

鳳銜瓊戸之花粧舊以言多年遇崇聖道之德空雖

吞滿聖化之愁今日仰賢才之化悔還無遺弃愚才

之恨遙望仙殿長慕隗臺云爾謹序

(62)

聖代嘉猷尤足稱賢才是貴碩声與礪谿蹟出雲空

宿傳野道聞月獨昇春岸釣拋忘綠艸朝端齡老杖

紅藤庸材幸接仙材末但喜孜孜道正弘

(63)

中書王

先貴賢才非一途功成理定不須與張公暫入終安

漢陸氏相傳久輔具至性過人宜作宝餘輝照物重

於珠松高莫笑風儀濫今日新仙詣玉都

○讚德部

和高禮部再夢唐故白太保之作

(64)

中書王

古今詞客得名多白氏拔群足詠歌思任天然沉極

底心將造化動同波中華變雅人相慣季業頽風體

未訛再入君夢應天理當時風月必誰過

我朝詞人才子以白氏文集為規模

故兼和已來言詩者皆不失體裁矣

藤為時

〔二八才〕

1 匹夫—疋失山尊A尊B京内B国・疋夫内A群 石—右諸

本 2 罷—羅 (ミセケチ「罷」) 尊B内B

3 太宗—太宗尊A尊B京内B国群 4 衙—衙尊B国

5 滿—瀛山尊A尊B国・瀛 (ミセケチ「瀛」) 内B・瀛

(左傍書「ソノマ、」) 京・漏内A群 才—戈尊B・戈

(ミセケチ「才」) 内B 6 之—ナシ尊A尊B 云—之

山尊A 7 才—戈尊B内B 與—與尊A・與 (ミセケチ

「與」) 国 谿—溪山尊B内A内B群・潘尊A国・潘 (傍

書「溪カ」) 京 出—去 (ミセケチ「出」) 尊B内B

7 嘉—喜山

8 開—開山

〔二八ウ〕

1 同前—同前都字山

3 才—戈内B 暫—暫諸本

4 人—又 (ミセケチ「人」) 国

5 高—喬諸本 笑—咲諸本

7 太保—大保諸本

〔二九才〕

1 季業—季業諸本 2 未訛—コノ下割注入ル諸本 天—決

内Aヲ除ク諸本・天内A

3 白氏—白代尊A尊B内B 兼—永尊A尊B京内B・ミ

セケチ「承」) 国 己來—以來諸本

(65)

兩地聞名追慕多遺文何日不謳歌繫情長望遐方
月入夢終踰萬里波露膽雖隨天曉隔風姿未與影
圖訛仲尼昔夢周公久聖智莫言時代過

我朝慕屏風跡
者多圖屏風故云

夢中同謁白太保元相公

「二九才

(66)

二公身化早為塵家集相傳屬後人清韻已看同是
玉高情不識又何神風聞在昔紅顏日鶴望如今白
首辰容鬢宛然俱入夢漢都月下水煙濱

白太保傳云大保者是文曲星神而相公未見其
所傳矣余少年時先人對余常以談元白之故
事

客有圖孟嘗君像以詩讚其德者矣余昔讀史記

知四君之為人因成四韻加篇末

「二九ウ

(67)

相門有相事無空田代常為六国雄名問諸侯傳薛
立謀謔下客入秦宮樓臺在昔綺羅月同里于今任
俠風豪傑人人維景慕偏憐家上牧羊童

○詩部

夏日同賦未厭風月思深字

儀同三司左相府

風月結交非古今相思未飽每年心感時無上吹花
色逢友應求出霧陰文路春行看不足詞江秋望老
弥深美哉丞相優游趣詩酒與中聞法音

「三〇才

于時州講問
故有此興

6兩—雨尊A

8影圖訛—コノ下割注入ル諸本

9我朝—我朝儋尊B内B

「二九ウ」

3属—屢山尊A国 清韻—清句諸本 看—着山尊A尊B内

A内B・着(ミセケチ「看」)国 4何神—コノ下「白

大保—所侍矣」ノ割注入ル諸本 紅顔日—コノ下「余少

年—故事」ノ割注入ル諸本 6大保者—太保者内A 未

—来山尊A京内A・来(ミセケチ「未」)国 常以—以

常諸本 談—ナシ尊B内B

8客—容山

「三〇才」

2代—氏(代ニ重ネ書)国 名問—名門諸本 侯—候内A

薛—薩群ヲ除ク諸本 3客—各尊B内B 于—主山尊A

尊B京内A内B・至国群

4傑—□尊A内A国・栗山 偏—ナシ諸本

6未—末尊A 厭—飽諸本 7(割注) 帝作—(傍書) 弟

平国 8未—末尊A 上—止山

9看—着山尊A尊B京内A内B・着(ミセケチ「看」)国

「三〇ウ」

1游—遊諸本

同前

左金吾

(69) 何事詞人未飽心嘲風弄月思弥深嗜殊滋味吹花
色滴似調飢落水陰翰墨難乾頻末浪襟懷常繫桂
華岑一時遇境無俗物莫道醺醺漫醉吟

同前

源三品則忠

二三〇ウ

(70) 風月自通幾客心相携未飽思尤深文場猶嗜照窓
影詩境更耽過竹音幽谷春遊誰作足高樓夜宴久
難吟此時獨恨無才用其奈抽簪入暮林

同前

江以言

(71) 由來風月思沉沉遇境方知未飽心到老恨遺朝不
倦逐時癖在弄弥深起家望德清明影嗜道猶求吹
舉音偶奉翹材東閣道長誇古蹟自傳吟

同

(72)

藤為時

二三一オ

(72) 未飽多年時思侵清風朗月久沈吟志隨日動何為
足與遇晴牽豈厭心班扇長襟煖不盡禁臺餘味老
弥深時人莫笑散楊吏白髮緋衫獨尚濡

春日同賦閑居唯友詩以心為韻

(73) 閑居希有故人尋益友以詩興味深苦嗜獨題如念
志緩吟自聽便知音思凝草木過連壁義人風雲勝
斷金若不形言兼扶醉何因安慰陸沉心

5 嘲—心嘲(下ニ転倒ノ記号) 国 弄—喋諸本 深—ナシ

(補入) 国

6 乾—朝(ミセケチ「乾」) 内 A

7 遇—過諸本 9 源三品則忠—源三山品則忠 尊 A 内 A

〔三一オ〕

1 自—身(ミセケチ「自」) 内 A

3 簪入—入簪(上下転倒ノ記号) 尊 B 内 B

6 未—來山尊 A 京内 A・來(ミセケチ「未」) 国

7 逐—逐(ミセケチ「逐」) 尊 B 内 B 明—影(ミセケチ

「明」) 内 A 8 古蹟—古跡諸本

9 同—同前尊 A 尊 B 内 B 国

〔三一ウ〕

2 月—ナシ(沈吟ノ下ニ転倒) 内 A

3 班—斑京 襟—尊 A 尊 B 内 B 楚—禁尊 A 内 A

4 笑—咲諸本 5 唯—(補入) 尊 B 内 B

7 壁—壁内 A 人—入諸本

8 断—新山 扶—杖諸本

○酒部

唯以酒為家情字

「三二ウ」

(74)

以酒為家無所營時時吟咏

杜康昔構容人

息陶令重來寄我生戶牖梨花松葉裏鄉園藍玉
山程榜題宜號忘憂觀一入長休毀譽情

勸醉不如穩心字

高積善

(73)

酒客素雖被感侵不如自勸醉秋陰他時常醒應懷

近日頻傾是與深論戶春風還報面授卿臘月欲

寒心莫言一盞忘憂物蓮府仁恩及陸沈

醉時心勝醒時心 酣字

藤輔尹

(76)

醉心已勝最應甘誰以醒時比漸酣与被停盃思往

事豈如添戶契交談漢高祖樂頻傾識楚屈原憂未

酌諳百慮消中遺有恨老來官散淚難堪

寒近醉人消題中

江以言

(77)

凜凜沍陰酒數巡寒消難近醉中人鄧公席散嚴霜

及王氏鄉占愛日隣蘭殿宴蘭花雪暖竹林冬至玉

山春仰恩斟酌恩愛無筭便識堯樽百姓親

○贈答部

閑中聞左親衛員外將軍兩度遊宇治川聊述中

懷偷呈下風

「三二オ」

3 吟咏—吟咏助歡情諸本 容—客尊B内B・客(重ネ書

「書」) 国

4 玉—山(ミセケチ「玉」) 国

5 休—体 国 情—聲諸本

6 穂—秋諸本

8 酒—酒(傍書「酒」) 国 懷—懷吟諸本

9 報—報山尊A京内A 国 群—赦尊B内B

「三二ウ」

2 酣字—酣山

4 被—彼内Aヲ除ク諸本 傾—似尊B内B 国・欣尊A 群

9 沍—沍諸本 鄧—劉尊B内B・劉尊A 国 散—絶諸本

「三三オ」

1 隣—隣尊B内B 雪—霜(ミセケチ「雪」) 内A

2 筭—弄尊B内B

4 川—河諸本

5 左金吾—(傍書) 公任京

左金吾

(78)

行樂仙郎端坐客寂寥想像勝遊程華舫有月波澄
色蓬戸無人雨滴声詩酒笙歌非我事林叢水石称
君情相思未慰弃予恨空有多年号契名

覬謁之後以詩贈大宋客荒世昌

「三三才」

藤為時

(79)

六十客徒意態同獨推羌代作才雄来儀遠動煙村
外賓禮還慙水館中畫鼓雷奔天不雨彩旗雲聳地
生風芳談日暮多殘緒叢以詩篇仔細通

重寄

(80)

言語雖殊漢思同才名其奈昔楊雄更催鄉淚秋夢
後慙慰羈情晚醉中去國三年孤館月帰程萬里片
帆風嬰兒生長母兄老兩地何時意緒通

懷 感勘解藤相公賢郎茂才蒙課試之綸旨聊呈鄙

「三三ウ」

源孝通

(81)

相公本是道英雄材幹森然文亦工棘路今歡名已
列李門昔恨業猶空魚疲逆浪鱗難泥風拂重霄翅
自冲泗水慕龍情未忘尼山砥犢志應同宜誇仙桂
連枝月將扇儒林累葉風七八廻問科第思三千徒
裏拔群躬非唯明主用君器定識素王酬文功文項
橐賢苗不秀公孫弘智艾初通豈如才子專天爵漸
近年丁選帝聰萬里青雲雙脚下一家榮耀孔懷中
獨慙詞苑為奴僕兼難吏送作老翁驥櫪縱無驚塞

「三四才」

7 船—松尊B内B

8 声—国 笙歌—坐哥諸本

「三三ウ」

1 大宋—太宋諸本 羌—羌山・羌（傍書「姜乎」）国

3 羌代—羌代（傍書「姜氏乎」）国 儀—義尊B内B

煙—燭（傍書「煙」）国 畫—畫内A・盡京

5 叢—羨諸本 仔細—子細諸本

7 同—門山尊A京内A内B・門（傍書「同」）国

8 慙—暫諸本 9 兩—雨尊A国

「三四才」

4 材—找（ミセケチ「材」）尊B内B 幹—翰諸本

5 難—難諸本 6 慕—幕尊B内B

7 第—弟尊A尊B内B国 科第思—コノ下割注入ル諸本

8 文項—大項諸本 9 才子—戈子尊B内B国

「三四ウ」

1 聰—聽山尊A京内A・聰（ミセケチ「聰」）国

偶若俱得遇試馳忠

賢郎二人累應茂才舉舍弟侍中右少丞長德四年登科令茂才次蒙此宣旨云云
美州前刺史再三往復訪以予病不堪愛懷詩以答謝

勘解相

(82)

一句臥病絕交遊唯有美州致問愁老眼昏矇如遇夜衰容飄灑似迎煠山隨寸步蹤猶峻水逐殘齡淚暗流世上君留應憶我荒墳宜見暮松幽

「三四ウ

頃者侍中御史中丞到囚門近駐華轂普見囚徒与食療飢好事之輩以詩歎美予傳以聞之又繼其末本韻

源為憲

(83)

詠家著德知君子積善餘風慶豈無今日上天應感激霜臺來愍夏臺事

奉和藤賢才子登天台。之什本韻

源為憲

(84)

天台山峻萬里強越得經行古寺場削跡鸞鹿尋上界懸心發露契西方顧閑邇刷千年雪僧老眉垂八字霜珍重君辞名利境空王門下立遑遑

戸部尚書重賦丹字見贈鈔吟咏反覆欲罷不能愁課庸鷺以盡餘意

中書王

(85)

瓊篇尋我曉凌寒暫耻報詞日已闌韻句花開堪賞翫貞堅松老不凋殘鼎湖早灑千行淚金闕難供九

2 難史—歎更諸本 寒—寒偶諸本

3 試—誠尊B内B 4 茂才—茂戈尊B内B 国 侍中—侍中

尚書内Aヲ除ク諸本 登科—登尊B内B 旨—者(ミセ

ケチ「旨」) 尊B内B 5 刺史—判史尊A尊B内B 詩

—訪諸本 7 勘解相—勘解相公諸本 8 一句—一句内A

9 諷纏—颯纏尊A内A 国群・颯灑山尊B内B・颯灑京 迎

—過内Aヲ除ク諸本・遇内A

「三五オ」

2 中—(補入) 尊B内B 穀—穀内A

6 詠—詩群ヲ除ク諸本

7 事—羣(傍書「羣」) 尊A 国

9 源為憲—同尊B内B 群

「三五ウ」

1 鹿—麋諸本

4 見—詞(ミセケチ「見」) 尊B内B 詞ノ下ニ—門(ミ

セケチ) 尊B内B 反覆—反見覆(見ミセケチ) 内B

5 餘—(補入) 尊B内B

8 鼎湖—昇湖諸本

轉丹憶古見今猶悵望漢文往昔示邯鄲

來詩有天曆舊臣二句叙先朝之意也船背叟戀恩幾許泣邯鄲之句

和戸部尚書同賦寒林暮鳥歸本韻

中書王

鏗鏘珠韻滿篇寒旭日沈吟及景闌元白新情賸上
出楊班古意筆端殘唯應草聖妙飛墨本自詩仙何
用丹奇字奇文看不足還嘲彭澤與邯鄲

○錢送部

七言暮春員外藤納言書閣餞飛州刺史赴任

應教詩一首并序

江以言

天德應和之間天下士女之語才子者多云高俊茂
能則早遂儒業永入佛道高俊則今之所餞飛州
刺史是也刺史以才知也如此吏擇時如何彼郭細
侯之春竹雖有風聲之可傳劉太守之秋蒲猶非霜
威之不用於是納言書閣靜置離酌聊祖行鑣計後
會於四年恨遺黃門之風月指前程於千里眼極東
山之煙霞于時西鳥漸落驪駒頻嘶以言初指一道
之先跡今從同門之後塵甲科偶登未改青衿之在
我丁年空過豈圖代而別君云爾

十餘年往結交久忽別飛州萬里雲雲色風聲應佐
我無官官送有官君

贈飛州高使君赴任詩

儀同三司

「三五ウ」

「三六オ」

「三六ウ」

「三六オ」

1 始—給山京内A・鮎尊A尊B内B 二句—ナシ尊A尊B
内B 国 2 同（補入）国

4 滿—滴内A 旭日—六曲尊A尊B内B 国群・（傍書「六
曲」）山内A 5 筆端—筆頭諸本

6 看—着山尊A京内A

7 餞送部—餞還部山内A

8 刺—（補入）尊B内B・棘尊A

「三六ウ」

2 才子—戈子尊B内B

3 （能）能—茂能（ミミ）山尊A尊B京内B群・ミ内A・
ミミ（傍書「茂能」）国 4 刺史以—判史以尊A尊B内

B 知也—知世諸本 5 太守—大守諸本 蒲—蒲（ミセ
ケチ「蒲」）国 6 酌—酌（傍書「酌」）国

7 程於—於程（転倒ノ記号アリ）国

8 鳥漸—鳥山尊A尊B内B 驪駒—離駒内Aヲ除ク諸本・
雉駒内A

「三七オ」

1 過—過（傍書「過」）尊B内B 白—白面諸本

(88)

把酒別遙日暮時為君更寄一篇詩東都春月秋風
夜四五年來分付誰

代遼陵嶋人感皇恩詩

源為憲

「三七オ

(89)

遠來殊俗感皇恩彼不能言我代言一葦先推身殆
沒孤燈暗博命纔存故鄉有母秋風淚旅館無人暮
雨魂豈慮紫泥許歸去望雲遙指舊家園

高麗蕃徒之中有新羅國遼陵嶋人忻兢悅之者
其文不優頗知詩篇臨別之日予與一篇

勘解相公

(90)

我尋京洛辭雲去君赴高麗棹浪歸後會離期何歲
月秋風宜使雁書飛

○懷舊部

「三七ウ

(91)

秋日會宣風坊亭与翰林善學士吏部橋侍郎御
史江中丞能州前刺史參州前員外源刺史藤茂
才連貢士懷舊命飲

自越榮利別文賓酌酒吟詩亦不親聚雪窓中三益
友宣風坊北一尋辰心如少日紅顏昔齒及殘秋白
髮新嘉說交談俱在我泣言運命各由人藤尚書恨
藏山月慶內史悲遁俗塵不若聊成懷舊飲憂腸半
忘養精神

藤尚書慶內史共是舊日詩友落飾入道兩別詩
酒余以友恨故云
讀諸故人舊遊詩有感

中書王

「三八オ

6 酒—酒 (ミセケチ「酒」) 国 遙—筵內 Aヲ除ク諸本

8 嶋—島諸本

「三七ウ」

1 先—ナシ內 A 2 没—没先 (転倒ノ記号アリ) 內 A 燈
—蓬諸本 暗博—暗轉內 Aヲ除ク諸本 人—月 (ミセケ
チ「人」) 尊 B 內 B 4 忻—折尊 A 尊 B 內 B

5 臨別—臨監尊 A

7 去—云內 A 君—ナシ內 A 浪—浪君 (転倒ノ記号アリ)

內 A 婦—卿尊 A・卿 (傍書「婦」) 国

9 懷舊部—懷舊山京

「三八オ」

1 翰林—翰林 橘—橘 (傍書「橘」) 尊 B 內 B

2 刺史—判史尊 A 尊 B 內 B 茂才—茂戈尊 B 內 B

3 (作者名)—勘解相公尊 A 尊 B 內 B 国

6 嘉—喜山

7 悲—非尊 A 俗塵—コノ下ニ割注入ル諸本 半—平国

9 雨—雨山尊 A 国 友—有山

「三八ウ」

(92)

往年歡与怨當時世事皆如風裏雲今日更披舊詩
見十中五六是遺文

初冬感李部橘侍郎見過懷舊命飲并序

勘解相公

予天元五載石州秩罷爍初歸洛自秋暨冬閑居宣
風坊宅矣橘李部過于家門蓋懷舊之義也時也荒
主貧交芳志切春戀留連日將及昏于嗟康保年中
文友比有餘輩或昇青雲之上交談遙隔或歸黃壤
之中存沒共離其餘多執臺省之繁務亦割刺史之
遠符居止接近日不暇給所謂左少丞菅祭酒兵部
藤侍郎太子學士藤尚書肥州平刺史美州源別駕
前藤總州李部源多郎慶内史高外史是也如彼前
日州橘大守柱下菅大夫工部橘郎中三著作命先
朝露恨深夜臺矣便知君我之相逢誠是平生之樂
事也權得忘年之友偶令閑日之談云爾

「三八ウ

(93)

閑居情感被何催門巷蕭條稀客來偶遇芝蘭芳契
友宣風坊裏一傾盃

題故工部橘郎中詩卷

中書王

(94)

君詩一帙淚盈巾潘謝末流原憲身黃卷鎮携疎牖
月青衫長帶古叢春文華留作荆山玉風骨消為蒿
里塵未會茫茫天道理滿朝朱紫彼何人

齊院相公亡日令修諷誦

儀同三司

5 橘—搦尊B内B 序—ナシ内A

8 蓋—益山尊A内・益尊B内B 荒—宅荒諸本

9 春—眷諸本

「三九オ」

2 刺史—判史尊A・判史尊B内B・刺史国

4 刺史—判史尊A尊B内B 駕—賀山尊A京内A・賀(ミ
セケテ「駕」)尊B内B

6 大夫—太夫尊B内B

8 偶令—偶合国 9 芳—(友ノ下ニ転倒)内A

「三九ウ」

1 傾—欣尊A

2 工—公山尊A内A国・公(ミセケテ「工」)尊B内B

5 青衫—青衫諸本 玉風—王風内A

7 亡—已尊B内B・亡(重ネ書「己」)国

9 涙不禁—コノ下ニ「自少年…有識」ノ割注入ル諸本

95

相公去後幾光陰每憶才名淚不禁翠羽簾前鸚鵡
盡紅花帳下鳳凰琴唯從神院蒸嘗礼未習佛門寂
滅心向使當初行一善冥冥中有有相尋

自少年時世有識往年人人參會齊院之日
相公簾中出盡忽作佳句傳聞待公宅之帳下受
妙筆之

秋日到入唐寂照上人舊房

儀同三司藤原伊周也

96

五臺眇眇幾由旬想像遙為逆旅身異公縱無思我
日他生豈有忘君辰山雲在昔去來物溪鳥如今留
寺人到此悵然歸未得秋風暮處一霑巾

余近曾有到寂上人舊房之作左丞相尊閣忝賜
高和聊次本韻敬以謝

儀同三司

97

秋景纔殘不及旬蕭條相憶遠遊身徘徊巖戶荒涼
(A)珍重瓊篇答晚辰增價還慙吳市馬吞声遥謝郢
歌人適交懷舊詩篇末抱筆沉吟整葛巾

冬日往詣般若寺見故藏閣黎舊房中心之感觸
緒難禁遂書所懷寄覺上人

左金吾

98

僧龍去後幾光陰赴到那堪泉下心林學釋尊雙樹
色水傳憐梵一言音慈悲已斷空留室忍辱長薰獨
濕襟殊惱心腸君識否婆娑舊契与年深

秋日登天台過故康上人舊房

勘解相公

「三九ウ

「四〇オ

「四〇ウ

「四〇オ」

1 盡—コノ下ニ「往年：作佳句」ノ割注入ル諸本 鳳凰

琴—コノ下ニ「伝聞：妙曲」ノ割注入ル諸本

2 冥—冥々諸本 3 公宅—公主諸本

5 割注—ナシ諸本・（傍書）藤原伊周京

7 句—句内A 異公—異郷京・異公（公ミセケチ「土」）
尊B内B

8 溪—漁尊A・漁（ミセケチ「魚」）尊B内B

9 寺—寺（重ネ書「守」）尊B内B

「四〇ウ」

2 謝—答謝尊A国

4 景—景（ミセケチ「景」）京 句—句内A 徘徊—徘徊
国 荒涼—荒涼處諸本

6 末—末山

7 閣—閣尊A

黎—梨諸本

8 寄—奇尊A 9 左金吾—（傍書）公任京

「四一オ」

2 橋—橋尊A京内A国 己—己尊B内A内B

3 婆娑—娑婆内Aヲ除ク諸本・娑（ミセケチ「娑」）婆内
A

6 去—先山尊A京内A国・先（ミセケチ「去」）尊B内B

(99)

天台山上去物存歲幾周行道遺蹤苔色
舊坐禪昔意水聲石門羅月無人到巖空掩雲見
鶴遊此處徘徊思往事不圖君去我孤留

去年春中書大王桃花閣命詩酒左尚書藤員外

中丞惟成右菅中丞資忠內史慶大夫保胤共侍

席內史右大王屬文之始以儒學侍縱容尚矣七

八季來洛陽才子之論詩人者謂三人為先鳴當

于其時或求道一乘或告別九原西園雪夜東平

花朝莫不閣筆廢吟春戀惆悵廼者研精之餘披

覽去春之作其文爛然存其人忽然去矣遂懷舊

之瓊篇忝賜惟新之玉草善以為翰墨之庸奴藩

邪之舊僕而已恩也為時一讀腸斷再詠淚落偷

抽短毫敬押高韻

藤為時

「四一ウ」

(100)

梁園今日宴遊筵豈慮三儒減一年風月英聲揮薤
露幽閑遠思趣林泉新詩切骨歌泣往事傷情覺似

眠繁木昔聞推折早不才無益性靈全

○述懷部

向西京過孔門口號

勘解相公

出入廟堂舊小生空帰今日向西京過門禮拜慙慙

祝願許槐門作上卿

除名之後初後三品重陽之日得陪宴席感所催

欲罷聊述鄙懷呈諸知己

「四二オ」

7 槐—秋諸本 羅—罷諸本 空—室山尊A京内A国

8 徘徊—徘徊尊A国

9 桃花—排花山尊A尊B京内B国 閣—閣山尊A京内A国

「四一ウ」

2 在大王—右大王群ヲ除ク諸本

3 才子—戈(ミセケチ「オ」) 子尊B・戈(ミセケチ「オ」)

于内B

5 春戀—眷戀山尊A尊B内B国群

6 然—愁内B 遂—遂製山尊A尊B京

7 玉草—玉草山尊A尊B京内B国

8 邪—邛山尊A尊B京内B国・邸群

「四二オ」

2 減—減諸本

3 泣—温山京内A・湿尊A尊B京内B国群

4 推—摧尊A尊B京内B国群 全—令(傍書「全キ」) 尊

A・令(傍書「全乎」) 尊B内B

8 慙慙—殷勤山京ヲ除ク諸本・殷勤山京

「四二ウ」

1 後—復内Aヲ除ク諸本 陪—倍諸本

勘解相公

我是柴荆貶謫人豈圖微召列文資除名二月花開
日待詔重陽菊綻辰籬落不要陶隱醉蘭叢應咲楚
臣綬忽拋野服染愁淚更着朝衣賁老身過死空爲
黃壤骨愁生再踏紫宸塵半焦桐尾雖殘燼已朽松
心免作新籠鶴放雲振泥翅鰲魚得水潤枯鱗鬢斑
蘇武初歸漢舌在張儀遂入秦運任秋蓬風處轉榮
同朝茵露中新抽簪將學空門法未報皇恩未解紳

「四二ウ」

(七行分空白)

本朝麗藻卷下

「四三才」

(一行分空白)

建曆三年十月廿六日於大聖院御所加校
點了

桑門清寛

明和六年三月六日使他士寫之重以他
本校之可也

式部大輔菅原在家

(二行分空白)

「四三ウ」

2 懷一(補入) 尊B内B 3 勘解相公—同尊B内B

7 紫宸—紫宸(ミセケチ「宸」) 国

8 斑—班山尊A尊B京内B群

〔四三才〕

1 茵—蘭内A京

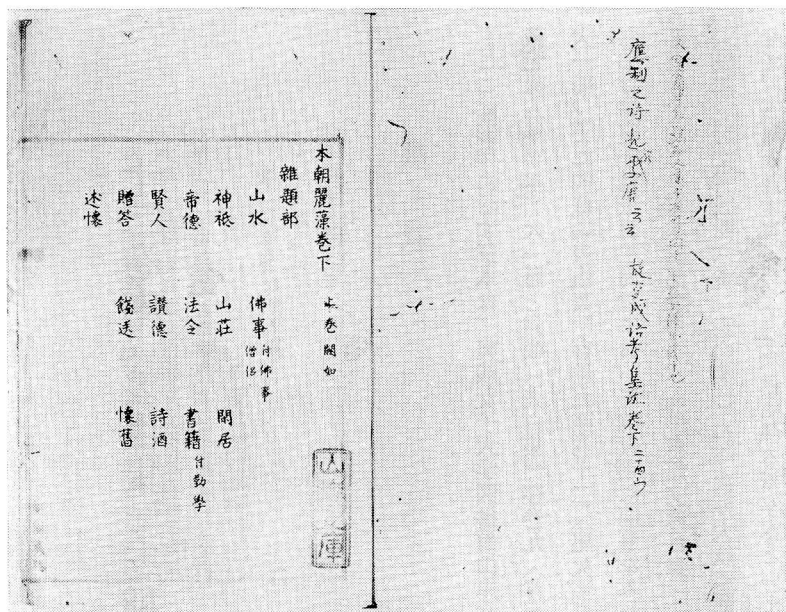
8 卷下—下／本朝書目録云(曰尊B内B) 本朝麗藻二卷高
積善撰諸本

〔四三ウ〕

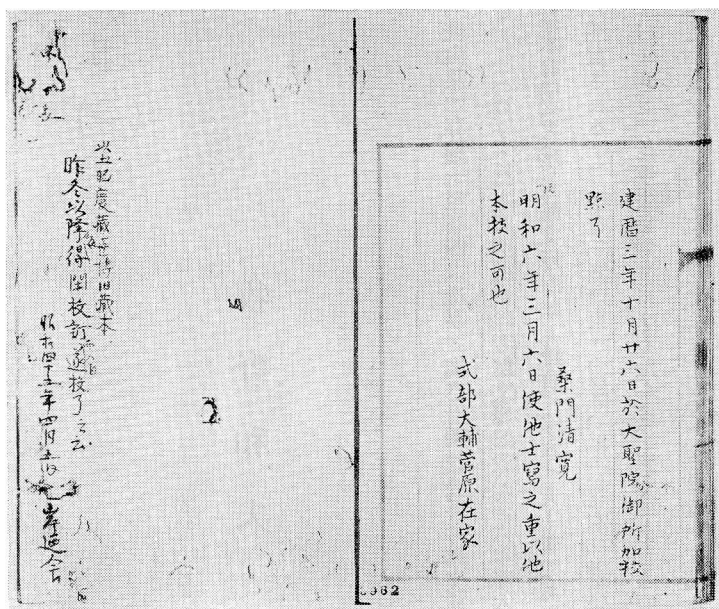
2 校點—交點山尊A京内A国・ナシ尊B内B

5 明和六年：8 菅原在家—ナシ諸本・本朝麗藻上下二卷所
存于世唯下卷耳貞享甲乙丑季春搜索金澤文庫偶得上卷殘
編自補之京

(表紙見返シと一丁オ)



(四十三丁ウと裏表紙見返シ)



『本朝麗藻』『苔の衣』訂正

調査報告二十六 山岸文庫本『本朝麗藻』（「年報」第九号所収）・調査報告三十三 実践女子大学図書館蔵『苔の衣』（五本）（「年報」第十一号所収）につき、次のように訂正致します。

訂正箇所	誤	正
第九号 七六頁3行目	楮紙渋引表紙	楮紙刷毛目渋引表紙 ***
第十一号 一二八頁4行目	「三袖書屋」の朱印。	後に「川瀬一馬氏旧蔵 *** 本」と補記。

関係各位にご迷惑をおかけしました。お詫び致します。（横井 孝）